



千本松原(海津市)

あふらじませんげんつみ

最大の難工事と言われた油島千間堤に1kmにわたって連なる松並木は、藩士たちが薩摩から取り寄せた松の木を植えたものだといわれています。

千本松原の南端には宝暦治水工事を記念して建立された宝暦治水碑があります。



宝暦治水碑(海津市)

〈参考文献〉鹿児島県薩摩義士顕彰会「薩摩義士」第18号他

1755(宝暦5)年3月下旬にすべての工事が完了し、同じ年の5月に幕府の検分を終えました。

検分を終え、国もとへ工事完了の報告をした翌日の5月25日、平田鞞負は切腹し、52年の生涯を閉じました。多くの犠牲者を出したと、約40万両(現在の金額で約300億円以上)という多額の費用を使わざるを得なかったことに責任を感じての死だと言われています。

〇工事の完了



上／現在の木曾三川。右から木曾川、長良川、損斐川。
下／木曾三川公園

宝暦治水のその後...

明治時代にオランダ人技師のヨハニス・デレレーケによって行われた三川分流工事、昭和の沿岸工事により現在の姿になりました。



①／宝暦治水工事の責任者である平田鞞負がまつられています。昭和2年の着工以来、実に10年の歳月をかけて完成しました。毎年春(4月25日)と秋(10月25日)に義士の功績をしのび顕彰式が行われています。

②③／難工事で命を落とした80数人の薩摩義士が各地でまつられています。

ぐるっと薩摩義士まちあるき(鹿児島市)

薩摩義士に思いをはせながら、緑の地を巡ってみませんか。



③ 平田公園

かつて、平田鞞負の屋敷があった場所で、園内には昭和30年に平田鞞負の銅像が建てられました。平田屋敷跡は、昭和29年に県の史跡に指定されています。



④ 平田橋

昭和30年に平田鞞負の名をとって架けられた橋。人々の生活に欠かせない橋となっています。現在の橋は、昭和61年に架け替えられたものです。



① 薩摩義士碑

宝暦治水の工事中に命を落とした80数人の犠牲者の供養墓塔として大正9年に建立されました。藩の出費の責任をとって自刃した治水総奉行・家老平田鞞負の碑を頂上に、将棋の駒を並べたような碑です。



② 県立図書館

敷地内には、平成2年に岐阜県の旧根尾村(本巣市)から寄贈された薄墨桜が植えられています。



⑤ 薩摩義士の墓(大中寺)

薩摩義士240年祭を機に、工事で犠牲となった薩摩義士の遺徳を顕彰し供養するため、大中寺に墓が作られました。



【ふれあい事業交流旗】

①岐阜のシンボル「さるぼぼ」②鹿児島のシンボル「桜島大根」③ふたつのシンボルが固く抱き合っている絆を表現しています④三本の線は「木曾三川」を表しています⑤三つの川が一つになって渦巻いて…⑥澄んだ一本の流れに…宝暦治水の偉業をたたえています⑦シンボルを囲む円は「縁」そして「和」を表します。

昭和46年に鹿児島県と岐阜県が姉妹県盟約を結んだことをきっかけに、両県の青少年が隔年に相互の地を訪問し、歴史的な関わり合いを認識しながら友情や絆を深めることなどを目的に、昭和47年度から実施しています。

これまでふれあい事業に参加した方々が中心となるOB団体として、鹿児島県内に「鹿児島県『美濃の会』」、岐阜県内に「岐阜県さつまの会」が結成され、交流が行われています。

両会では、ふれあい事業に参加する若者に対して心構えや事業の流れを説明する事前研修や、事業日程や視察場所の選定などの企画運営を行っており、二つの県の橋渡し役も務めています。

✂ 鹿児島・岐阜青少年ふれあい事業とは

時を超えて受け継がれる交流の絆

鹿児島・岐阜青少年ふれあい事業

鹿児島県「美濃の会」 事務局長 **池下 真也** さん



鹿児島からの参加者の中には、宝暦治水についてあまり知らないという方も多く、岐阜の交流生の話聞いて刺激を受けることも多いですね。岐阜の人たちが、鹿児島に足を向けて眠れないという話を聞くと驚く人たちも多いです。先人のことを大切に思ってくれているということを知るにはいい機会ですね。

ふれあい事業は、お互いの県を知る第一歩。これをきっかけに、いろいろな人と交流の機会を持ってもらいたいです。



○薩摩義士から生まれた「絆」 **吉永美郷**さん(平成22年度39期参加者)

ふれあい事業に参加し宝暦治水の歴史を学んだことで薩摩義士の素晴らしい働きが、両県の間に深いつながりや絆を生んだことを知りました。“一期一会”といいますが、薩摩義士を縁に始まったこの交流によって生まれた出会いに感謝し、学んだこと、感じたことを忘れずに今後の生活の中で生かしていきたいです。



【問い合わせ先】 鹿児島県「美濃の会」 TEL:099-253-9857 (鹿児島県青少年団体連絡協議会)

岐阜県さつまの会 会長 **林 豪太**さん

岐阜県さつまの会は、ふれあい事業の参加者が「一度参加しただけで終わるのはもったいない」と32年前に結成しました。会には、大学生から60代まで幅広く、さまざまな職業の方がいらっやいます。



岐阜への受け入れ事業では、スキーなどが盛り込まれて好評だとか。

ふれあい事業の目的は、両県の理解と絆を深めること。宝暦治水のことはもちろんお互いの県のことを知るいい機会なので、これからも積極的にこの事業をサポートし、薩摩義士の心をより多くの人に伝えるため、そして後世に継承するために、よりよい交流の場を作っていきたいですね。



ふれあい事業が縁で結ばれたという豪太さん(岐阜県出身)と利江さん(鹿児島県出身)ご夫婦。

【問い合わせ先】 岐阜県さつまの会 TEL:058-273-4946 (特定非営利活動法人 岐阜県青年のつどい協議会)

そのほかの交流団体

- ・民間 鶴垣鹿維(鹿児島)、大垣青年クラブ(岐阜)
- ・行政 鹿児島市と大垣市、霧島市と海津市、日置市と関ヶ原町・大垣市

人事交流

鹿児島県では、姉妹県盟約を結ぶ岐阜県との間でも県職員や教員の相互派遣を行い人事交流にも取り組んでいます。

- 交流職員 ・県職員・・・平成6年からそれぞれ1人を交流派遣(2年間)
- ・教員・・・高校は昭和45年から、小・中学校は昭和47年から、それぞれ1人(計3人)を毎年度交流派遣(3年間)

鹿児島市立吉野中学校 教諭 やすだ とおる 安田透さん

鹿児島市立吉野中学校教諭の安田透さんも平成22年4月に岐阜県から鹿児島県に赴任してきた一人。「鹿児島への赴任希望は出していましたが、決まった時にはびっくりしました。鹿児島には学生時代と、3年前に旅行で来たことがあり、こういうところに住めたらいいなと感じた場所です」と話す安田さんは、奥さんと二人、鹿児島市内に暮らしています。

「鹿児島の人たちは、情が厚くて気さくな方が多いですね。子どもたちも人なつこく気軽に話しかけてくれます」と安田さん。学級活動の時間などを利用して岐阜県のことや宝暦治水の歴史について話すこともあるとか。「岐阜県では、宝暦治水について小学校の授業でも取り扱っているの、子どもたちは、皆知っていますが、鹿児島では知らない生徒も多いですね。でも、先生の話聞いて興味湧きましたって言ってくれると自分が来た意味があったんだなと思います」と鹿児島の生徒たちとの交流にやりがいを感じています。

「鹿児島は、緑多き山々、透明度の高い美しい海など素晴らしい自然が豊富ですし、近代日本の基礎を築いた偉人にまつわる場所も数多く残されています。鹿児島には、まだまだ訪れてみたいところがたくさんあります。岐阜に帰ったら鹿児島の魅力を伝えていきたいですね」。



岐阜県の社会科副読本

小学校4～6年生の社会科の副読本では3ページにわたり宝暦治水について取り上げています。

治水工事を完成させるまでの薩摩義士の苦勞のほか、工事にかかった費用などについて書かれています。



【編集:岐阜県小学校社会科研究会】

岐阜県総合企画部
観光交流推進局
観光・ブランド振興課

たなか しょうご
田中省吾さん
(平成22年度より鹿児島県から派遣)

岐阜県では、「観光展の調整」や「ウインターキャンペーンの展開」など、県内に観光客を呼び込む仕事をしています。岐阜はもちろん、周辺の県の観光地や観光施策も知ることができ、とても興味深く勉強になります。

ここでは、今でも薩摩義士の偉業に対して感謝の気持ちを持っている方が多く、非常に温かく接していただいています。実際に治水神社など薩摩義士に縁のある場所を訪ねてみましたが、大切にまつられている様子を見て、あらためて薩摩義士の偉大さを実感しました。

岐阜で過ごした貴重な経験を生かして、これから鹿児島と岐阜の交流の発展に少しでも役に立つことができたらと思っています。

